

第 11 回 埼玉スポーツ医学セミナー

日時:2021 年 6 月 24 日(木)19:00~20:00

第 1 講演

演題:「末梢神経の視点でみるスポーツ障害-運動器エコーの活用法-」

演者:宮武 和馬

所属:横浜市立大学付属病院 整形外科 指導診療医

【略歴】

2011 年 3 月横浜市立大学卒業

2011 年 4 月東京厚生年金病院

2013 年 4 月東京厚生年金病院 整形外科

2014 年 4 月 JCHO 東京新宿メディカルセンター整形外科

2016 年 4 月横浜市立大学医学研究科運動器病態学教室

2020 年 4 月横浜市立大学附属病院整形外科 指導診療医

【サマリー】

X 線,CT,MRI と有用な検査が多い中,近年運動器エコーの普及はとどまることを知らない。ただ,それぞれの検査には,一長一短があり,使い分けることが重要である。どれが一番いいということは決してない。軟部組織の評価を例にとると,MRI は細かな出血の評価や全体を俯瞰してみることができることなど,勝る点も多い。一方で,エコーは高解像度で観察でき,血流の増加や動的評価などもできるため,MRI では評価できない部分も補うことができる。そして,何よりエコーの強みは診断だけではなく,治療に用いることができることにある。ステロイドや H A などの注射だけでなく,近年では超音波ガイド下に末梢神経に対して液体を注入することで痛みや機能不全を改善する hydrorelease も可能である。劇的な効果を出す一方で,安易な局所治療を続けることは悪影響であり,病態の理解と全身の身体機能改善が最も重要であることも理解した上で治療に当たる必要がある。

第 11 回 埼玉スポーツ医学セミナー

日時:2021 年 6 月 24 日(木)20:00~21:00

第 2 講演

演題:「山の魅力と山岳医の仕事」

演者:大城 和恵

所属:北海道大野記念病院 医学博士 国際山岳医

【略歴】

- ・長野県生。日本大学医学部卒業。医学博士
- ・Leicester(レスター)大学 PGC in Mountain Medicine 修了
- ・UIAA/ICAR/ISMM 認定 Approved Diploma in Mountain Medicine
英国国際山岳医取得(日本人初)2010 年 ◦UIAA - International Climbing and Mountaineering Federation ◦
※国際山岳連盟
- ICAR - International Commission for Alpine Rescue ◦
※国際山岳救助協議会
- ISMM - International Society for Mountain Medicine ◦
※国際登山医学会
- ・Fellow of Academy of Wilderness Medicine
Wilderness Medicine Medical Society 米国野外医療学会のフェロー授与
(日本人初・日本人唯一)2015 年
- ・Medex UK Member
英国 Medex 会員(日本人初・日本人唯一)

【サマリー】

「山岳医療」とは、山岳地で発生する病気や怪我への医療を指し、高山病や低体温症などの医学が発展してきました。特に山岳医の資格制度は、山岳地での救急医療と、遠征に必要な高所医学にフォーカスし、その水準を高め発展させようという目的で 1997 年スイスを拠点に国際的に発足されました。私は世界最高峰エベレスト(8,848m)を最初に征服したイギリスで、この学問を学び、資格を取得しました。一方、アメリカには Wilderness Medical Society(WMS)という学会があり、1980 年代から低体温症のガイドラインがアラスカを中心に発展してきました。高緯度帯のアラスカに北米最高峰のデナリ山(6,192m)が位置し、まさに隔絶された環境です。私は広い国土の

北米で、野外医療という学問と自助能力を高める教育を学び、日本人唯一の Fellow を取得しました。「山岳医療」は、その国や山域といった背景の中で、科学的に発展を遂げている学問です。しかしながら、限られた環境と登山者数から、エビデンスの確立が難しい分野もあり、見識者の経験や意見も大いに参考になる学問でもあります。山を登ることは、山の地形や気候の変化に、身体を晒す挑戦です。困難の中で身体の限界を高めたり、環境から身体を守ったり、リスクをコントロールして成功することは大きな達成感になり、替えがたい素晴らしい体験です。これこそ山の魅力です。私にとってもう一つの山の魅力は、医学的好奇心と探究心が一層刺激されることです。山の医療は机上で学んでいてはわからないことも多く、自らが体験してわかること、山の中で診療して学ぶことが多くあります。私が海外の山に登る理由には、その山への憧れの他に、その山でこそ体験できる医学があるからなのです。現在私は、低体温症の生存救助率の改善、登山外来による心臓死の予防、山岳地での応急処置技能の普及、遠征隊同など、人の命を守る取り組みをしています。科学としての「山岳医療」を発展させ、自らの経験を活かした山岳医の仕事を、厳しく美しい山の写真と共にお伝えします。